

上京

史蹟と文化



美を語る

けい ききょうじゅん
慶喜恭順

かぶら ききよかた
鏑木清方

昨秋、五二円の切手セットに二条城の十枚シリーズが発売されました。可愛らしいデザインの切手の多い中で、この二条城シリーズは大人の切手と言いか、とても厳肅な印象のあるものでした。観光客の訪問先としてベスト・スリーに入る名所ですが、京都には珍らしく、武家の遺構であります。今は京都市が管轄していますが、元々は徳川氏の所有するものでした。一六〇二年（慶長七年）徳川家康が命じて着工され、翌年三月には、征夷大將軍の宣下（せんげ）を朝廷から受けるため家康は上洛して、城に入っています。その後は、少しづつ増築され、公武の儀礼の場として用いられました。朝廷の動きを監視、牽制すること、この城の役割の一つだったと思われる。以来二百七十五年、最後の將軍徳川慶喜が、征夷大將軍の称号を朝廷に返上し、同時に政権を朝廷に還すまで、二条城は重要な政治的拠点として機能し続けた。

さて、大政奉還後の一八六六年（慶応四年）正月三日、旧幕府軍と新政府軍の間についた戦争「鳥羽伏見の戦い」は、旧幕府軍が劣勢となつて、慶喜は大阪から軍艦に乗つて江戸へ逃れました。伏見とその周辺は戦乱に巻き込まれましたが、幕末の騒乱で疲弊した京、伏見の人々の間には、他の地方の人々ほど、幕末、明治初の改革を双手（もて）を挙げて歓迎する空気はなく、特に、江戸に遁走（とんそう）した徳川慶喜の行動には、芳（かんば）しい評判はありませんでした。歴史上の人物となった現在でも、「慶喜



美術史家

加藤 類子

さんはいま一つ」と評価する人が絶えません。

一方、慶喜を江戸で迎えた江戸の人々はどつでありましょう。生粋の江戸子であつた画家の鏑木清方は、随筆集『こしかたの記』（続篇）に、このような感想を書いています。

……もつ三十余年の昔、人に誘われて、その頃神田の猿樂町に在つた能役者松本金太郎の舞台に、名人と呼ばれた宝生九郎の「安宅」を見に行つたとき隣棧敷に慶喜公と家達公とがならんで見物していられたのを、余所（よそ）ながらお見上げ申したことがあつた。

年を繰つて見るとその頃は慶喜公の六十三、四に当られる時分らしい。色の白い、気品の高い、端然（たんぜん）として袴（はかま）の上に両手を置いたままで、まことに行儀よくお能を見ていられるのが、能楽のような芸術になると、舞台もそつだが、見る方にもこつした風格が大切であつて、古典のすぐれた味が、こつあつてこそ完全に出し切るのだとそう思つた。（後略）

清方は絵画作品でも随筆でも、江戸の庶民の暮らしや習慣、また、將軍（くまがた）と江戸の人は愛称していたようですが）の居城であつた千代田城を中心にした江戸の町そのものを愛しておりましたが、この短い文章にも、慶喜公に対する清方の尊敬、親愛の念（にん）が滲み出（にじ）んでいます。大方の当時の東京の人々は、清方と似た心情であつたのでしょうか。

清方が隣棧敷に徳川慶喜や家達を見かけたのは、未だ若い頃で、二十歳台の後半のことではなかつたでしょうか。棧敷席を共にすることなど考えることも出来なかつた御身分から、庶民と膝を交（か）じる現

在のお姿。それだけでも清方は深い同情を禁じ得なかったでしょう。その頃から、清方はいつか機会があつたら絵にしたいと思うようになりました。

実際に清方が慶喜の肖像を描いたのは、一九三五年（昭和十年）のことで、一九三六年二月の改組新帝展に出品しました。その作画のため、清方は上野・寛永寺内の元大慈院の一室を訪ねた雨の日を、詳しくその随筆に書きとめています。朝廷に政権を返還し、鳥羽伏見の戦いを経て、江戸に帰還し、恭順の意を示すために謹慎籠居された慶喜の姿を、もう一度再現するための取材でした。

十畳程度の室内は、「張壁は白地へ雲母の紗綾形と群青色の影日向の立葵、襖は白地へ群青の葵の紋散らしである。東向きに九尺ばかりの床があつて、その床柱は丸太のさっぱりした、群青色の葵の紋とはちつと時代の違つようなと思われる程、チョクな感じのもてる柱で、狐色にてらたら光つて、手摺れて古びた、根岸あたりの寮住居をさえ偲はせる。」と詳しく述べています。その中に謹慎する慶喜の幻は、能見物の際偶々隣の棧敷に座つておられたお方でなくてはならなかった。謹慎の慶喜は丸腰ではなく、短刀を帯びていますが、それが事実なのかどうかは判らないけれど、清方は慶喜が山岡鉄舟に賜つた短刀、「千段巻漆塗の柄に蛸色鞘、紺の丸打の下緒の付いたまことに質素な」短刀を佩かせています。ここまで念入りの肖像画は、今では珍らしいと言つべきでしょう

が、『平家物語』な

どを読むと、武者の

兜や鎧、馬の鞍や

鐙などの装飾の微に入り細を極める描写、しかもそれが特

慶喜恭順 1935年



殊なことでない気配に驚かされます。古代の文献・文学の描写は兎も角、清方の作品については、一九三〇年（昭和五年）の《三遊亭円朝》や《一葉》についても

も言えることで、清方が描かれる人物の全人格を表そうとし、そのために、少しのことも揺がせにできなかったのではないかと思います。

清方が肖像画を描いたのは、昭和初期から二十年代までの間です。肖像画は一般的に言つて、西洋美術のもので、勿論、頂相（高僧の肖像）や供養の目的を帯びた王侯貴族や武将の肖像画は日本にもありますが、少し目的を異にしています。清方の場合は、必ずしも本人を前に描くわけではなく、写真であつたり、遠見のイメージだったり、追憶だったりしますが、清方にとつて大切なことは、ささやかながらも、そこに現実に即したドラマが在ったことでした。《三遊亭円朝》は、白湯を一口飲んで、一席を話し始めようとする瞬間を描いています。また、《一葉》は一葉の日記から、その場面を借りています。《慶喜恭順》は、先にお話した通りです。花鳥風月を中心の京都の近代日本画には注目すべき肖像が殆どありません。東京では浮世絵版画の伝統のあるからこそ、人物描写は人々に抵抗なく受け入れられたのかも知れません。最後の浮世絵師と言われた清方ですが、日本画というジャンルに、肖像画という新しい分野を加えたことも、清方の功績の一つだと言つてもよいのではないのでしょうか。

※引用文は、中公文庫『続・こしかたの記』昭和五十二年刊行によりました。



三遊亭円朝像1930年（東京国立近代美術館蔵）

大 小 路

おおじ こうじ

上京の史蹟 その30

六 軒 町 通・
七本松通・下ノ森通

六軒町通

千本通から西には六軒町・七本松・下ノ森の三本の縦通りがあります。その西は御前通です。これらの道の北辺は「柏野^{かしわの}」と呼ばれました。この地名は早く平安時代の史書『日本後紀』に見え、千本釈迦堂の後ろの森を「柏森^{かしわの}」といい、そこには「柏ノ社^{かしわの}」があったと伝えられています。柏野は、内野・北野・平野・点野^{しめの}・紫野・蓮台野とともに七野^{なな}の一つとして

数えられ、野とつくところから広漠たる原野であったようで、おそらく地下が岩盤で農耕に適さない土地であったと思われるます。そして北野天満宮の創建以来、神領となりました。六軒町通は上立売通を起点とし、ほとんど一直線に南下します。その北を柏清盛町といいます。が、これは明治元年に柏野町と清



報土寺本堂

玄町・盛下町とが合併して出来た町名です。それ以前は周辺の町とともに釈迦十丁町^{しやうじやうまち}と呼ばれ、大部分が栗田青蓮院領で、その他は一条家と大徳寺の領地でしたが、明

治になって民有地となりました。今出川通の手前に燈明寺と親縁寺があります。日蓮宗の燈明寺は後陽成天皇の勅命で、一日百燈供養を修せられたことによってその寺名となりました。親縁寺は浄土宗で慶長十一年（一六〇六）に僧頼譽^{とんよ}が勅許を得て創建しました。笹屋町通下るの若松町あたりには大管会畠^{だいくわんえんばた}がありました。ここは天皇の即位礼に新穀を神に奉る大管会の斎所^{いしよ}があったところで、その址^{あと}は今の通り名で東は千本、西は七本松、南は一条、北は今出川にあたり、応仁の乱によって廃絶しました。

仁和寺街道近くには一番町から七番町までありますが、ここは天正十五年（一五八七）に聚楽第が築かれた時に一番から七番までの組屋敷が置かれたことに由来します。この地域には多くの寺があります。中でも四番町には報土寺があり、表門と本堂が重要文化財に指定されています。この寺は



千本釈迦堂 大根炊き

六年（一六二九）の棟札が発見されたことにより旧地から移転したことが判明するとともに建築年代も確認されて一間薬医門の表門とともに昭和六十年に重要文化財となりました。本堂は正面七間、側面六間、一重、入母屋造、本瓦葺の典型的な浄土宗本堂で、正嘉二年（一二五八）の造銘のある木造阿弥陀如来立像も重要文化財です。

「五番町」といえば遊郭を思い浮かべますが、その始まりは享保の頃（一七一六～一七三六）にまでさかのぼります。江戸時代には禁止や再興がくりかえされますが、慶応三年（一八六七）に至って独立の遊郭となりました。

七番町には華光寺、福勝寺、玉蔵院がありますが、華光寺は出水の七不思議の一つ「時雨の松」で知られます。今では松は枯死し幹が保存されています。

下立売通から南は中京区に入り、二条駅の西側を経て四条通の日本写真印刷の構内で途切れ、その先は「東新道」と名が変わり五条通で終わります。

七本松通

一筋西の七本松通は寺之内通から始まります。広い道を下がって行くと、翔鸞小学校の東側に千本釈迦堂の西口があります。ここは大報恩寺といい真言宗智山派に属しています。国宝の本堂は桁行五間、梁間六間、一重入母屋造、檜皮葺、鎌倉時代を代表する仏堂で、創建当初の安貞元年（一二二七）に建てられた京都の旧市街地で最古の建造物です。

大報恩寺は鎌倉時代初期、承久三年（一二二二）に羽州の人、義空によって創建されました。鎌倉や比叡山で修行し天台密教を会得した義空が猫間中納言光隆の従者であった岸高から自らの家の寄進

柔道圓心道場

〒602-0014
京都市上京区室町通寺之内上ル下柳原北半町 210
TEL (075) 441-1968 / FAX (075) 441-2972

山崎接骨院

〒602-0898
京都市上京区烏丸通寺之内西上ル相国寺西門前町 647
TEL (075) 451-6050 / FAX (075) 451-6051

<http://www.enshin.sakura.ne.jp/>

新・古茶道美術品

清昌堂 やました

京都店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル

〒602-0061 TEL (075) 431-1366

FAX (075) 431-1370

東京店・東京都新宿区市谷甲良町1-8

〒162-0856 TEL (03) 5261-4566

FAX (03) 3235-5677



上七軒

す。室町時代、北野天満宮の社殿を造営した際、その残木で七軒の茶屋を建てたことによると伝えられています。寛永年間（一六二四～四四）に茶屋株が許され、明治以降は西陣の機業家が主な客筋となり、北野天満宮とともに栄えて現在に至っています。四月上旬の「北野をどり」や北野天満宮の梅花祭の茶席、さらに最近は歌舞練場での夏のビヤガーデンなど芸妓と親しく接することができるのも、上京の風物詩の一つといえるかもしれません。

を受け、釈迦如来像と十大弟子像を飯堂に安置したのが起こりです。七七〇年余りの間、密集した市街地にありながら、度々の大火にも焼け残ったのは、お寺を火から守り抜いた西陣の町衆の住民意識の高さとその意気込みでしょう。

今出川通（府道銀閣寺宇多野線）と交差するあたりから西へ入る道が「上七軒」です。京都の花街の一つで、鳥居前町・真盛町・社家門前町にまたがっていま

つ、延々十条通まで続くのです。

下ノ森通

下ノ森通は市電北野線の北野車庫にあった停留所が「下ノ森」であつたことを覚えていられる方もおられると思いますが、道路としては一条通の宥清寺の門前から細い道が南へ延びており、丸太町通を越えて太子道で終わります。一条通下るところを「藍屋辻子」といい、ここにある西正寺・金泉寺・妙栄寺を三軒寺と称したようです。

その南は鳳瑞町とい南北に長く延びています。明治二年に宝受寺屋敷・随念寺長屋・西三軒町・雙林寺屋敷という字地を合わせて宝受寺と随念寺の二字を取って鳳瑞町としたようです。寺院

と敷地で占められていたようすが、平安宮では造酒司や武徳殿・図書寮などが置かれていました。造酒司の遺跡はアスニの地下に保存され、丸く柱跡が示されています。

と敷地で占められていたようすが、平安宮では造酒司や武徳殿・図書寮などが置かれていました。造酒司の遺跡はアスニの地下に保存され、丸く柱跡が示されています。

（出雲路敬直）



廬山寺「鬼の法楽」と

元三大師「良源」

京都産業大学 日本文化研究所

上席特別客員研究員 小嶋 一郎

洛中洛外に節分の行事は数多くあれど、中でも有名なものに廬山寺の「追儼式 鬼の法楽」があげられる。神社仏閣の垣根を越えて



節分行事は多くの社寺で実施されるが、鴨川を境に、節分行事の参詣者の人口密度を比べて、仮に番付にしたとして、東の横綱を「吉田神社」とすると、西の横綱は「廬山寺」といえるのではあるまいか。「鬼の法楽」を説明するにあたっては先ず廬山寺の歴史を綴らねばならない。廬山寺は延暦寺第十八代座主、比叡山中興の祖といわれる「良源」が船岡山の麓に開いた興願金剛院を発祥とする。鎌倉時代には覚癒（法然の弟子）が再興。天正年間には豊臣秀吉の都市改造の折、現在の寺町通に移ったとされる。現在も上京区から北区を東西に走る「廬山寺通」は、中世の廬山寺の面影を今に伝えるものである。現在地に落ち着いたのは天

正元年であった。この地は紫式部の曾祖父である藤原兼輔（堤中納言）が邸宅を構えた場所でもあり、紫式部もこの地で源氏物語を執筆していたとされる。現在本堂の前には「源氏の庭」が夏には桔梗の花をさかせ、また境内には紫式部と娘であった賢子（大式三位）の歌碑が建つ。

「鬼の法楽（鬼踊）」は良源が勅願（天皇の指示）により三百日の護摩を修している時に、現れた鬼を、修法により退散せしめたことに由来するとされる。法螺貝と太鼓が境内に響く中、登場する三匹の鬼。松明と宝剣をもった赤鬼、大きな斧を振り回す青鬼、大きな槌を持つ黒鬼が順番に現れ、相撲の四股を踏む所作にも似た独特のリズムで練り歩く。三匹の鬼は多くの人間が抱える煩惱・三毒を表しているという。赤鬼は「貪（とん）」即ち「貪欲な心」、青鬼は「瞋（しん）」即ち「怒りや妬み」、そして黒鬼は「痴」即ち「正しい教えに耳をかさない愚かさ」。鬼を退治するというのは、具体

香木・夏香・霜種 輸入製造

山田松香木店

〒602-8014
京都府上京区勸修寺町164-1 御所番
TEL 075-441-4004
FAX 075-431-7879



ぼたん鍋と京料理

元祖
畑かく

京・上御霊前烏丸西

☎〇七五・四四一・〇六一〇代



元三大師(良源)像<廬山寺 大師堂 秘仏>

的な魔物を退治することではなく、仏教的に解釈すれば、多くの人間の心に宿る煩惱という厄介な魔物即ち「心の闇」を追い払うということになる。境内に設えられた舞台の上で多くの参詣者を前にして暴れた鬼たちは、やがて大師堂の中に入り、導師の修する護摩の法力により力を弱められ、追儼師により邪気を払う矢が射られ、蓬萊師によって蓬萊豆(紅白の福豆)や餅をまかれることにより、ほどなく大師堂から追い出され退散していく。

導師による「護摩」は仏の智慧と教えを表し、矢を射る行為は人間の規則正しい生活態度を表し、

できるということを「鬼の法楽」の「鬼踊」は暗示しているのではなかろうか。

そしてもうひとつ、廬山寺の節分会にお参りする時、忘れてはならないのが「鬼のお加持」である。「加持」というのは仏教の用語で力を与えることである。「鬼の法楽(鬼踊)」が始まるのは午後三時頃からであるが、これに先立ち大師堂の前では、人間と同じような肌の色をした鬼が座りながらにして、列をなしている参詣

豆や餅は真面目に働いた労働の成果を表しているものとみたい。つまり人間の日々の真面目な生活態度と仏への帰依によって、自分の心の闇に巣食う煩惱という名の魔物は退治

者に順々に加持をしている。本来、節分行事の前面にお加持を貰うことは多かつたと推測するのだが、現在節分行事の際に「加持」を実施しているのは、私の知る限りでは他に豊橋の鬼祭(高松神明社 鬼祭)位である。廬山寺の場合、別の鬼が参詣者に加持を施すということはおそらく、鬼に相對する時、自らの姿を鬼としたという伝説の持ち主、良源(元三大師)の姿そのものである。自らの心を或いは生活態度をなかなか律しきれない凡夫の為に、良源みずからが異形の姿となり、人々に力を分け与えていると考えれば、追儼式に先立って、先ずはお加持を受けるべきである。



鬼大師(良源)像<廬山寺 大師堂 秘仏>



紀元前3000年頃。パンのシンボルが描かれ、食料配給の割り当てが記録されている。

和光印刷株式会社

〒602-0012 京都・烏丸通上御霊前上ル TEL.075-441-5408代
E-mail:info@wako-print.co.jp



京都人さえもが恋するホテル。

BRIGHTON
HOTELS

〒602-8071 京都市上京区新町通中立売(御所西)
TEL.075-441-4411 (代) FAX.075-431-2360
<http://www.brightonhotels.co.jp/kyoto/>

新・上京の昔ばなし

京の鬼門封じる二つの猿

北東の角だけ凹む築地塀

京都御所は、一三九二年（元中九／明徳三）の南北朝合一から一八六九年（明治二）の明治天皇東京行幸（事実上の東京遷都）までの五〇〇年近く、歴代天皇が住



猿ヶ辻駒札

まいされ、重要な儀式や政務を執り行う皇居だった。この間、幾度も火災に遭い、現在の建物は一八五五年（安政二）に、平安京の内裏に倣って再建された。六つの門と築地塀と御溝水に囲まれた東西約二五〇メートル、南北約四五〇メートルの敷地内には、紫宸殿、清涼殿をはじめ小御所、御学問所、御常御殿などの建物が現存、春・秋の一般公開時には多くの参観者が訪れ、大いに賑っている。

築地塀の四周を歩くと、北東の角だけは内側に大きく凹んで、直角に曲がる南東、南西、北西とは全く異なる光景が目につく。陰陽道では、北東（艮Ⅱうしとら、丑と寅の間）は鬼が出入りする鬼門で万事に忌むべき悪方、また北東



猿ヶ辻の猿

とは正反対の南西（坤Ⅱひつじさる、未と申の間）の方角を裏鬼門として嫌う。鬼門に角が付いたまままだと災いを招くといわれ、建物などの北東の角を凹ませ、あるいはそこに玄関を設けないことで「鬼門は無い」とする「鬼門除け」は、東西両本願寺の外壁や一般の民家などでも同様で、一八七二年（明治五）に新政府が陰陽道を迷信として廃止させたにもかかわらず、現代の建築物にもしばしば見られる。

虎 トラヤ

www.toraya-group.co.jp

Every Day 5:00~7:00pm
HAPPY HOUR
40%OFF

金曜・土曜は
4:00pmから開催!!

毎日17~19時はお酒が4割引!!ホテルバーのハッピーアワー!!
1F ライブラリーラウンジ・バー「ヘイヴン」では、
毎日17~19時はボトル、企画商品および喫茶メニューを除く、
すべてのドリンクを40%OFFでお楽しみいただけます。
この機会にホテルバーをお気軽にご利用ください。

ライブラリーラウンジ・バー「ヘイヴン」 Tel.075-223-8974 (直通)
地下鉄京都市役所前駅から徒歩で約1分

京都ロイヤルホテル & スパ

鬼門を鎮護する木彫の猿

京都御所北東の築地塀の屋根瓦の下かえるまたの裏たてえ股ぼしに、立烏帽子をかぶり御幣を担いだ木彫の猿が納まっていることから、この角を「猿ヶ辻」と呼ぶ。猿はユーモラスな姿だが、金網で覆われどこか不満そうなる表情にも見える。実はこの猿、比叡山王の日吉神社の神使で、御所の鬼門を鎮護する重要な存在な



猿ヶ辻

のだ。だとしても「どうして鬼門を守るのが猿なの」「どうして金網の中にいるの」と疑問がわいてくる。それは古来から「北東の鬼に対抗できるのは真逆の坤に位置する猿」「猿は鬼・悪魔や妖怪などに対抗する不思議な力を持つ」などと考えら

れたからで、「桃太郎」の家来、「西遊記」の孫悟空などが仲間思い浮かぶ。この猿はまた「深夜ししば築地塀から飛び出し、悪戯を重ね、キャツキャと鳴く大きな声が光格天皇の耳に入って悩ませた」ため閉じ込められたと伝わる。一方で金網は「鳩やカラスなどの鳥が巣を作り、糞をまき散らしたりするのを防ぐものに過ぎない」と冷たく見る向きもあるが、それでは余りに身も蓋もなく、昔ばなしにもならない。このお猿さんはネット社会でも人気者で、「京



平門

の魔界」だとか「京都御所には猿がいる」などと取り上げられ、その姿をのぞき込もうとする観光客や修学旅行生が監視の赤外線センサーに引つ掛かり、警告ブザーに驚く姿を目にするかもしれない。お猿さんには「心安らかに、長く御所鎮護を」と願うばかりだ。



MALEBRANCHE
京都 北山

京都 北山
マールブランシュ

〒603-8053 京都市北区北山通植物園北門前
TEL (075)722-3399・FAX (075)702-9440
9:00AM~9:00PM 年中無休(喫茶10:00AM~8:30PM)
<http://www.malebranche.co.jp/>

猿だけが知る公家暗殺犯

この「猿ヶ辻」で一八六三年七月五日（文久三年五月二〇日）の深夜亥の刻、公家姉小路公知（一八四〇ー六三）が刺客に暗殺される事件が起こった。孝明天皇（一八三一ー六七）が諸卿を召した朝議を終えた公知が、宜秋門（俗に公卿門とも呼ばれる）から退出して、従者二人と共に西側の築地堀に沿って暗い夜道を北側に廻り、朔平門東の猿ヶ辻にさしかかった時、闇の中から何者とも知れぬ刺客三人が襲いかかった。公知は初太刀を胸に浴び、手にした笏をもって二の太刀を受けとめたが、笏は真つ二つになって頭に斬り込まれた。重なる深手にも屈することなく応戦して、刺客の一人から太刀を奪い取ったものの、その間に別の一人に胸を刺されてしまった。

重傷を受けた公知は、その太刀

を杖に猿ヶ辻の東方、後述する有栖川宮家の南東側にある自邸玄關までたどりつき、遂に倒れた。何分の深手で血汐はあたり一面を真赤に染めた。直ちに手当が施されたが、夜の明ける頃絶命した。時に25歳。その後太刀を証拠に探索が進み、暗殺者である可能性が高い人物として薩摩藩の「人斬り新兵衛」こと田中新兵衛が捕えられたが、彼は自害して果て、真相は



有栖川家などの屋敷跡

遂に不明のまま解明されることはなかった。

公知は三条実美とともに尊王攘夷派の中心人物で、徳川幕府の日米修好通商条約締結に反対し、前年には朝廷の副勅使として攘夷実行を強く迫っていた。この事件は当時の政局に大きな影響を与え、同年の「八月十八日の政変」が起きるきっかけにもなったが、真犯人を知っているのは鬼門除けに祀られた猿だけと伝えられる。

猿ヶ辻の場所が変わった

姉小路公知暗殺事件は「猿ヶ辻の変」というが、別に「朔平門外の変」とも呼ばれる。朔平門は京都御所を取り巻く六つの門の一つで唯一北面しており、南の建礼門、内裏の紫宸殿の延長線上に建ち、京都御苑の今出川御門に行きあたる。近年は上御霊神社の神輿がこの門の前まで参内することよく知られている。確かに猿ヶ辻はこ

の朔平門と近いが、隣合わせほどではない。実は一八五五年（安政

2）の京都御所再建時と現在では、猿ヶ辻が移動して、その場所が異なっているのだ。公知が暗殺された頃の内裏の築地堀は、朔平門の直ぐ東で曲がって南下、角が猿ヶ辻で、そこから直角に東に延びていた。江戸時代の古地図では、この一角に有栖川宮家の屋敷が大きく食い込んでいるのが分かる。現在の御所内には皇后宮常御殿の東、御花御殿の北には重要な建物がないことも、それを物語る証しといえよう。

京都御所や大宮御所、両御所を取り巻く京都御苑がほぼ現在の姿になったのは、明治10年代のこと。天皇東京行幸とともに有栖川などの宮家、近衛、九条、一条などの公家も京都を離れて、かれらの屋敷をはじめ御所周辺に並んでいた多くの邸宅が取り除かれ、周辺の環境は瞬く間に荒廃してしまった。一八七七年（明治一〇）、

明治天皇が帰京された際、この様子を哀しみ、「京都御所を保存し旧観を維持すべし」と沙汰を下され、京都府が「大内^{おおうち}保存事業^{ほぞんじぎょう}」を実施、一九一五年（大正四）の大正天皇即位大礼の際にも大改修があつて、現在のような景観に整えられた。

「猿ヶ辻」に猿の彫刻が置かれるまでの昔、辺りは「つくばいの辻」と呼ばれたとも伝えられる。往時は公家の屋敷が軒を合わせるように建ち並んで昼でも薄暗く、夜中に往来すると、足元が急にふらつき地面に這いつくばる現象が再三起きたそうだが、これも鬼門のなせる業だったのか。

雲上の猿が幸神社に鎮座

京都御所猿ヶ辻から東北へ約五〇〇^{メートル}、京都御苑東端の石垣から今出川通を越えた北を望むと、住宅街にひっそり佇む幸神社^{さいのかみ}に突き当たる。祭神は猿田彦大神^{さるたひののおかみ}と



幸神社

天鈿女命^{あめのつぎめのみこと}で、「祭祀は遠く神代に始まり、天武天皇の白鳳元年に再興、平安京創建時（七九四）桓武天皇により、皇都の北東の鬼門除守護神として造営された。その時の社名を出雲路道祖神といい、江戸時代初期に現在の地に遷座された際、幸神社と改められた」と由緒書きにある通り、社の鳥居奥側に立つ「出雲路幸神社」の石標には「皇都鬼門除」の文字が小さく刻まれている。

幸神社の北東部一帯は現在でも「出雲路」の地名が残るように、

周辺は出雲氏一族が平安京以前から本拠地としていた。猿田彦大神は出雲路の道祖神であつたといわれ、外から襲来する疫神や悪霊を塞^{ふさ}る役割を果たしていたが、平安京の創建時の趣旨は鬼門除けで、やがて鬼を塞^{ふさ}る道祖神「塞神^{さいのかみ}」が「幸^{さいのかみ}」になったと伝えられる。

この幸神社にも、もちろん猿が鎮座する。由緒書きは「本殿東側の壁に祀る三番叟（御幣を担ぐ猿の神像）は、御所内裏の東北隅の猿ヶ辻に祀られる猿の神像と共に皇都を護っている。表鬼門である北東の空を雲上から眺望し、疫神・悪鬼・邪気等の侵入を防ぐ姿を顕^{あらわ}す。



幸神社の猿

している」と続くが、この猿像はとても見つけにくい。本殿を一回りしても、それらしいものが見つからない。「はて困った」ともう一度、辺りをキョロキョロすると、「ここにおさるさんがいます」の小さな札が本殿東側の格子に掛かっており、ようやく写真に収めることが出来た。格子越しに見るこちらの猿は雲上から東北を睨みつける姿で、左甚五郎の作と伝えられるが、定かではない。幸神社には「石神さん」の話も伝わるが、またの機会に。

それにしても京都御所猿ヶ辻の猿、幸神社の猿、さらに修学院赤山禅院の屋根上の猿（こちらの瓦彫の神猿は南西を向き、京都御所の「猿ヶ辻の猿」と対峙している）、比叡山延暦寺の麓の日吉大社の猿と、都の中心から丑寅（北東）の方向へほぼ一直線に鬼門ラインがつながっていて、京の護りの堅さには驚くばかりである

上京薪能

第50回「上京薪能」が、9月22日に白峯神宮で開催されました。第一部では各社中による演目が披露され、火入れ式の後、第二部では邦舞「京鹿子娘道成寺」、箏演奏「春の海」、仕舞「鶴亀」、舞囃子「高砂」、狂言「鬼瓦」、能「狸々乱」などが上演されました。崇徳上皇に縁の深い香川県坂出市の市長や市民がお越しになるなど、例年にもまして多くの市民の方々に会場が満員になりました。来場者は、夕闇の中かがり火に照らされた幽玄の世界を堪能しました。



上京区人権月間

「講演のつどい」

十二月の人権月間にあわせ、十二月六日ホテルビノ京都堀川において、僧侶・アナウンサーの川村妙慶氏を講師として「講演のつどい」が行われました。

今回は、「今をより豊かに生きるために」をテーマに、メール相談等で多くの「心の問題」について取り組まれてきたご自身の経験を踏まえ、「自分を知ること」や「心の豊かさ」がいかに大切かを話しいただきました。

会場には200名を超える方が来場され、心の問題と人権の大切さについて理解を深めていただく機会となりました。



永年の信用
まごころのご奉仕

葬祭センター

公益社

本社／京都市中京区烏丸通三条下ル ☎ (075)221-4000
フリーダイヤル ☎ 0120-00-4200 <http://www.koekisha-kyoto.com>

◆ 葬儀式場 ◆

北プライトホール（堀川紫明）京都市北区紫明通堀川東入ル ☎ (075)414-0420
中央プライトホール（五条大和路）京都市東山区五条通大和路 ☎ (075)551-5555
南プライトホール（堀川八条）京都市南区堀川通八条下ル ☎ (075)662-0042
西プライトホール（五条西大路）京都市右京区五条通西大路西入ル ☎ (075)322-0042
山科プライトホール（五条外環）京都市山科区五条通外環状線東入ル ☎ (075)595-0042
烏丸プライトホール（因幡薬師）京都市下京区烏丸高辻南入東入 ☎ (075)351-7724
宇治プライトホール（宇治横島）宇治市横島町（京都文教大学前） ☎ (0774)20-0042
大津プライトホール（大津駅南）大津市朝日が丘1丁目 ☎ (077)523-0042

上京茶会



秋の「上京茶会」が、十一月九日妙蓮寺にて裏千家による懸釜で開催されました。あいにくの天気となりましたが、名高い椿の葉の緑も、雨に洗われて一段と濃く、石庭の静かな風情と相まって、心休まる一服を味わうひとときとなりました。

2014 上京区民 ふれあいまつり



「上京区民ふれあいまつり2014」が、10月26日に新町小学校で開催されました。汗ばむほどの好天に恵まれ、各学区・団体による模擬店や各コーナー、特設ステージは大盛況でした。会場にはかみぎゅうくん、エコちゃん、京都サンガF.C.のパーサくん、女子プロ野球フローラのフローラちゃんが登場し、子どもからお年寄りまでが楽しくふれあう一日となりました。

上京区民ふれあい 史蹟ウォーキング



11月30日、秋晴れの下「上京区民ふれあい史蹟ウォーキング」が開催されました。今回は、翔鸞児童公園をスタートし、観音寺、法輪寺（達磨寺）や妙心寺などを巡り、谷口の森児童公園をゴールとする約4.5kmのコースを歩きました。参加者は史蹟の説明を聴きながら、ぽかぽか陽気の中でウォーキングを楽しみました。

宴会・婚礼・会議
宿泊・レストラン

あすなろ

¥5,000(税サ込)

ホテル

ルビノ京都堀川

〒602-8056 京都市上京区東堀川通下長者町
TEL 075-432-6161(代) FAX 075-432-6160
<http://www.rubino.gr.jp/>



レストラン

11:30~14:00

毎週日曜日はお得な
ランチバイキングを
しております

おひとり

¥1,600(税込)

<http://www.hanakobo.co.jp>

フリーダイヤル 0120-46-8700



大切な方への御供えのお花、お誕生日、御祝のお花、
結婚式のブーケなど心に残る記念日を
お花で彩るお手伝いをさせていただきます。

花工房 京都本店 京都市上京区烏丸通今出川下ル
TEL 075-414-8700 FAX 075-414-7787

「上京・史蹟と文化」は上京区役所地域力推進室まちづくり推進担当で販売致しております。(TEL 441-5040)
また、上京区役所のホームページで御覧いただけます。



- 神学部
- 文学部
- 社会学部
- 法学部
- 経済学部
- 商学部
- 政策学部
- 文化情報学部
- 理工学部
- 生命医科学部
- スポーツ健康科学部
- 心理学部
- グローバル・コミュニケーション学部
- グローバル地域文化学部



Doshisha University
同志社大学
<http://www.doshisha.ac.jp/>

お問合せ先 同志社大学 企画部 広報室 広報課 TEL:(075)251-3120

酢一筋の商い、伝統の滋味。

きょう ちゅう しょう へ
伝統から未来へ
京・西陣 **孝太郎の酢**
(有) **林孝太郎造酢**

京都市上京区新町寺ノ内上ル東入道正町455
TEL (075) 451-2071
FAX (075) 451-8028



創立以来八十年に
わたって、
和やかな家庭的な
雰囲気包まれつつ
就学前教育の
本流をめざして、
保育を続けて
参りました。
幼児たちは
楽しい遊びを通して、
人生に必要な生きる
力のすべてを手に入れます。

学校法人 **北野幼稚園**

京都市上京区御前通一条下る (北野天満宮バス停下車南100m)
TEL.463-0111(代)
http://homepage3.nifty.com/kyotokitano_k/



名物ゆどうふ
南禅寺 JUNSEI

左京区南禅寺門前 電話 075-761-2311
<http://www.to-fu.co.jp>



発展、ともに前へ… 洛和会丸太町病院

洛和会ヘルスケアシステム®

京都市中京区七本松丸太町上ル

救急対応

24時間365日

内科・外科救急

内科／呼吸器内科／
消化器内科／心臓内科／
神経内科／外科／
整形外科／形成外科／
皮膚科／泌尿器科／
耳鼻咽喉科／麻酔科／
リハビリテーション科／
内分泌糖尿病内科／救急科

耳鼻科救急

月～金

午後7時～
午後11時

救急・急患には24時間体制で対応しています。

洛和会丸太町病院へのお問い合わせは TEL 075(801)0351(代)

MISAWA

ミサワホームイング

増改
築
リフォーム

リフォームをお考えの方に

全面改装・部分リフォーム・再生リフォームを通じて、安心・安全・快適に暮らす住まいをご提供します。

ご希望のカatalogをお電話でお申込ください。

複数選択可



1

住まいのメンテナンス編



2

屋根・外壁リフォーム



3

水廻りリフォーム



4

ECOリフォーム



5

高齢者対応(ユニバーサルデザイン)



6

外構・造園リフォーム



7

ホームイング実例集



8

ミサワホーム総合カタログ



住まいを通じて生活のおつきあい

ミサワホームイング 近畿 京都店

〒604-0022 京都市中京区室町通御池上る御池之町323 075(211)3241

■お申込はこちら



0120-330-351

火・水曜日 定休 受付時間 AM10:00～PM6:30